

長寿とサツマイモ（米国）

－ほぼ毎日サツマイモを食べた米国最高齢者が114才で死去－

川越いも友の会会長 ドゥエル ベーリ

米国最高齢者のレッシー・ブラウン婦人は114才で、2019年1月8日に死去した。ブラウンさんは南部のジョージア州アトランタ市外の農家生まれ育ち、18才の頃オハイオ州へ引っ越し、死去するまで同州で生活した。アメリカの最高齢者が死去するた

びに、そのニュースは良く報道され、家族などに対し「どんな生活習慣により最高齢者になったか」などが取材される。それによれば、ブラウンさんの長寿の秘訣は「ほぼ毎日サツマイモを食べた」と言われた（資料1）。

Oldest American, fan of sweet potatoes, dies at 114

NEW YORK

AP — Lessie Brown, a 114-year-old Ohio woman who was believed to be the oldest person in the United States, died Tuesday at the home of one of her daughters in Cleveland Heights.

Some in her family attributed her long life to the fact that she ate a sweet potato nearly every day until she was well past 100.

“Oh, I don’t know. A lot of them say it’s because I ate a lot of sweet potatoes, but I don’t think that’s it. I don’t know — God’s will,” she told WJW-TV when she celebrated her 109th birthday in 2013.

Brown was born in 1904 in Georgia and grew up on a farm near Stockbridge, outside Atlanta. She was one of 12 children and moved to Cleveland with her family when she was 18.

She married about four years later and



Lessie Brown THE PLAIN DEALER / VIA AP

had three girls and two boys. Her husband, Robert Brown, died in 1991.

It was not immediately clear who is now the oldest American.

The world’s oldest person is believed to be 116-year-old Kane Tanaka, who lives in Kyushu, according to the Gerontology Research Group in Sandy Springs, Georgia.

Brown turned 114 in September and celebrated the milestone with two of her daughters and grandchildren.

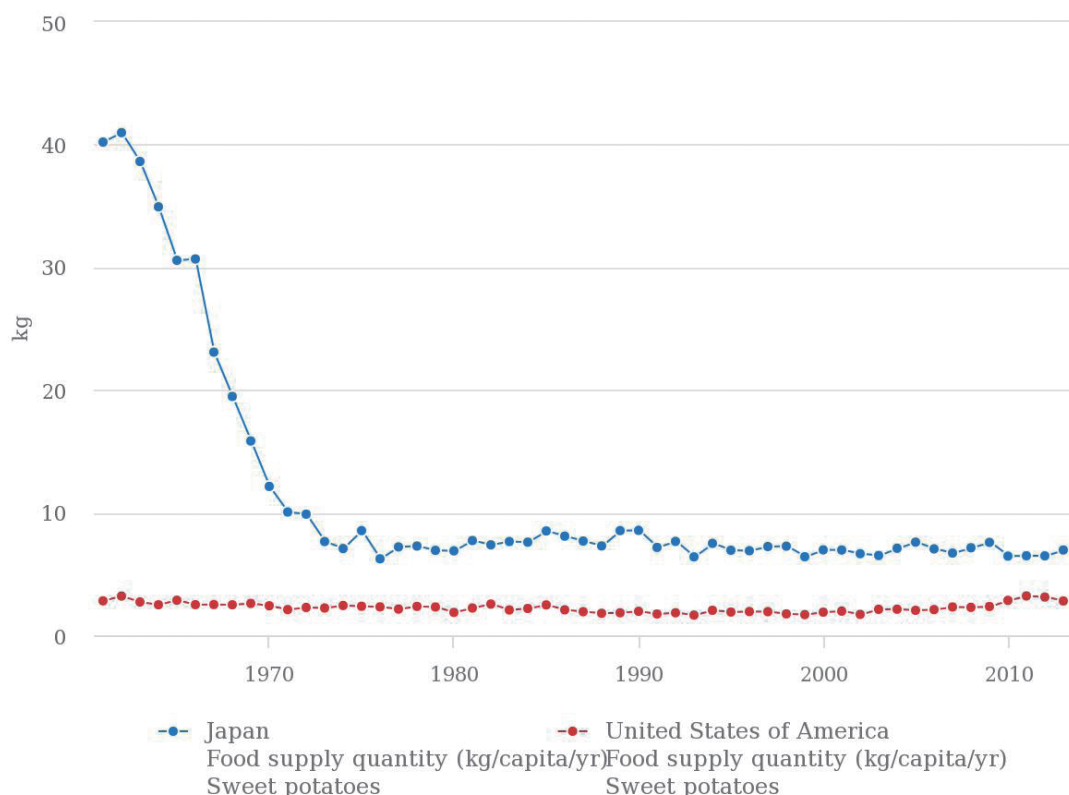
資料1 米国最高齢者は114才で死去、サツマイモが大好物。
(2019年1月10日、Japan Times)

日米のサツマイモ供給量比較

ブラウンさんは、ほぼ毎日サツマイモを食べた様だが、具体的な量は分からない。100グラムでも毎日食べたら、1年の摂取量は36キロ以上になり、アメリカ人の平均サツマイモ摂取量の10倍以上になる。日米のサツマイモ供給量を少々比較しよう（図1）。

日本のサツマイモ供給量は1961年の40kg/人/年から1970年代7kg位/人/年に減少し、以降、横ばいである。米国の場合、サツマイモ供給量は1961年以降、2～3kg位/人/年でほぼ横ばいである。但し、米国の場合、少数民族が多く、地方毎の産物の違いもあり、全国の食生活は必ずしも

均一な訳ではない。サツマイモの消費量でも幅があり、米国最高齢者だったブラウンさんはサツマイモを年間数十キロ摂取した例もあるが、これは珍しい方である。生まれ育ちのジョージア州は現在と違い、以前、米国の重要なサツマイモ産地の1つであった。ブラウンさんは1922年18才の頃オハイオ州へ引っ越したが、そのころ、出身のジョージア州のサツマイモ生産は米国1だった（同年の収穫量は275,000t（日本の現在の生産量が2番の茨城県や3番の千葉県を合わせた収穫量位）が、その後、減少したので、米国農務省はもう同州のサツマイモ統計を行わなくなった。現在、ノースカロライナ州のサツマイモ生産は米国1番



Source: FAOSTAT (Nov 08, 2018)

図1 1961年から2013年の日米サツマイモ供給量比較（kg/人/年）
（青線は日本、赤線は米国）、2018年11月8日FAOSTAT



図2 米国地図。1はブラウンさんが1904年生まれ育ちのジョージア州。2は18才頃の引っ越し先のオハイオ州。当時、ジョージア州はサツマイモ生産1番。3は現在生産1のノースカロライナ州。

で、2016年度の収穫780,000 tは全国の半分強を占める）（図2）。また、1922年、ブラウンさんが引越した頃、米国のサツマイモ供給量は18kg/人/年であり、1968年の日本と同じ位であった。1922年の米国サツマイモ収穫量は現在の日本の倍位である。

ブラウンさんはどんな品種のサツマイモにこだわりがあったか情報はないが、現在に至る、米東南部でカロチン含量が高い品

種は多い。また、好きな料理方もわからないが、ほぼ毎日サツマイモ1本を食べたと死亡記事に書いてあるので、料理法は焼き芋や蒸かし芋だったかもしれない。但し、オハイオ州でもサツマイモは近年まで1年中店に並んでいなかったようで、1977年頃、漸くアメリカで広くサツマイモが年中手配できるようになってきた。